

プロフィール  
○1952年(昭和27年)桜井市生まれ  
○県立桜井商業高校卒○明和グラビヤ化学㈱勤務、労働運動に参加○桜井市議会議員2期目・文教厚生副委員長、決算特別委員会副委員長○党奈良県委員会・中南和地区委員会各役員○党桜井市委員長  
○桜井市社会保障推進協議会副会長○趣味：釣り・登山



# いのちと暮らし守る市政に

## 吉田ただお

日本共産党

ごあいさつ  
今、「年金が減ったうえに、消費税増税で生活していくに、消費国保稅が払えない」など、みなさんがから数々の声を聞いてきました。市民の暮らしは大変な時こそ桜井市は、地方自治法の「住民の福祉の増進をはかる」とあるように、国の悪政から市民を守る防波堤の役割を果たさなければなりません。しかし、市はリーマンショックの翌年に、市民の暮らしに大きな影響が出るにもかかわらず国保稅の大額以上の黒字を出しています。私は市民の負担を少しでも軽くするために、国保稅の引き下げを求めて頑張ります。

三期目も働きかけて下さい。大きな支援を、心からお願いします。

## 桜井民報

発行 日本共産党桜井市委員会  
NO 54号 2015年1月号  
桜井市栗殿 1029-5 吉本ビル 201号  
電話・ファクス 0744(46)4930

日本共産党桜井市委員会は桜井市議会議員選挙の政策を発表しました。

市民の苦難をとりのぞくために頑張ります

### 困っている人がいれば、お役に立ちたい

高校卒業後、東大阪市の化学会社に就職をしました。そして、みんなが安心して働けるようにと、労働組合運動に参加をするなかで日本共産党に入党しました。

困っている人がいれば少しでもお役に立ちたい、これが私の共産党員としての原点であり、日本共産党の立党の精神でもあります。

### 日本共産党の専従職員として27年

その後、1979年から2006年まで27年間、東大阪市、奈良県中南和地域(大和高田市、桜井市、橿原市)で、日本共産党の専従職員として、弱いものいじめの政治のもと、国民のくらしを守るために奮闘してきました。

### 市民の願い実現のため粘り強く頑張ってきました

議会へ送っていただいた約8年間、議会ごとにみなさんの切実な要求を取り上げ、JR貯木場踏切の拡幅と通行の安全対策、子どもの医療費の助成制度の拡充、グリーンパークの高すぎるゴミ処理コストを引き下げるため、日立造船との委託契約の見直しを繰り返し求めてきました。



市と交渉をする吉田議員

### 安倍内閣の暴走ストップ 平和とくらし守る市政へ

今、働く人の所得が減り続けるなかでの消費税増税、原発の再稼働、「海外で戦争する国づくり」と安倍内閣の暴走は目に余ります。消費税10%増税などは、『もってのほか』です。みなさんと力を合わせて、増税をストップさせます。

国の悪政の防波堤として、市民が平和で安心して暮らしていく市政めざして、全力で頑張ります。

# 日本共産党桜井市後援会入会申込書

お名前  
ご住所  
電話番号

# 誰でもが安心して住み続けられる桜井市に

**安心できる介護保険制度に**

【茅原】 前山浩子  
来年度から介護の内容が大きく変わるようですが、安心して介護を受けられるようにして下さい。

**子どもの医療費の無料化を**

【大福】 山森有見  
若い世代が安心して子育てで生きる桜井市に。子どもの医療費は、窓口の負担なしで無料化にぜひしてほしいです。

## 今度もぜひ吉田ただおさんを市会に

**住宅リフォームの助成を**

【桜井】 小林弘房  
「住宅リフォーム助成制度」を桜井市でも実現して下さい。

**頼もしい味方、吉田さん**

【栗殿】 夷 保盛  
市のごみ焼却施設の処理によるダイオキシン濃度基準値超過での追求、国民健康保険や介護保険など福祉問題では市との交渉など、吉田さんは私たちになくてはならない人です。



纏向遺跡の保存と継承、まちづくりシンポを開催



ごみ焼却場のダイオキシン濃度超過で申し入れ



議会報告をする吉田議員



市民からの要望を聞く吉田議員

## みんなの願い届けます

### 子育て応援

- みなさんと力を合わせて、中学校卒業まで入院医療費が無料になりました。次は通院についても無料と窓口払い廃止に。
- 学校給食が民営化されても、現在の給食水準は確保させます。

### 暮らしの応援

- 「小規模工事希望者登録制度」が実現しました。「住宅リフォーム」についても補助を。
- 国保税の引き下げを
- 介護保険料の値上げをさせません。現在の介護サービス水準の維持を。

### 安心・安全

- グリーンパークごみ焼却施設における処理灰のダイオキシン超過について、徹底的な原因の究明と安全対策、市民への情報公開をさせます。
- JR貯木場踏切の拡幅と安全対策を。